

令和元年度 第2回小牧市児童館運営委員会会議録

日時	令和2年2月21日（金） 14時00分～15時30分	
場所	まなび創造館 多目的室1	
参加者	運営委員	永井勝彦、丹羽三枝子、来治英治、増田直美、小島恵子、伊藤恵子、東谷昌子、沖本喜久江、堀由貴
	事務局	こども未来部次長、こども政策課主幹（指導保育士）、こども政策課係長、こども政策課児童館担当、児童センター兼子育て世代包括支援センター長、味岡児童館副館長、篠岡児童館館長、小牧児童館館長、小牧南児童館館長、北里児童館館長、西部児童館館長、大城児童館館長
欠席者	運営委員	中川裕子
傍聴人	1名	
司会（こども政策課係長）	委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、令和2年度第2回小牧市児童館運営委員会を開催させていただきます。この会議は公開となっております、本日傍聴者が1名いらっしゃいます。それでは、はじめに、こども未来部次長よりご挨拶を申し上げます。	
こども未来部次長	<p>本日はご多忙にもかかわらず、第2回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、今年度の9月で子育て世代包括支援センターが整備されてから1年が経ちました。子育てに関する総合的な窓口として開設したこの施設は、毎日多くの方に利用され、1年経って市民の方にもだいぶ定着してきたように思います。特に相談件数は、月に100件近くにのぼり、日々子育てに悩む保護者の支えとなっています。来年度はいよいよ（仮称）こども未来館のオープンも控えておりますので、各児童館との連携を益々強固なものとし、一丸となって子育て支援の充実に努めてまいりたいと思っております。この委員会の役割も、より重要なものになってくると思っておりますので、本日は、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。</p>	
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、永井委員長よりご挨拶を頂きたいと思っております。</p>	
委員長	<p>本日は第2回目の運営委員会ということで、皆さまよろしく申し上げます。私も休日に児童館を8つ回らせていただいております。いつも子どもたちが立ち着いて豊かに活動していて、本当に貴重な児童館を運営していただいていると思います。今日はその報告と来年度の方針をご審議いただくこととなります。よろしく申し上げます。</p>	
司会	<p>それでは、早速、次第に従いまして報告事項に移らせていただきます。</p> <p>(1) 令和元年度児童館の現状報告について</p> <p>(2) 令和元年度児童館・子育て支援室利用状況について</p> <p>を一括で報告させていただきます。最初に、児童館の現状報告から申し上げます。</p>	
センター長	<p>(資料1)</p> <p>今年度は平成30年度の9月に中部公民館からラピオの4階に移転した後ということで、それぞれの年齢にとって、居心地の良い場作りに向けて取り組んでまいりました。</p>	

具体的な取り組みとしましては、乳幼児の居場所作りとして、3階の子育て支援室で時々聞かれる利用者の声で「子どもが動き回るから、よちよち歩きのお子さんが居る支援室では過ごしにくい。」という声が聞かれました。それを受け、4階の児童センターでは2歳～3歳ぐらいの体を動かすことが好きなお子さんに向けての環境を整備しました。広い館内でバンバンカーなどの乗り物で走ったり、トランポリンで飛び跳ねたり、サーキット遊びで身体を思いっきり動かしたりできるようにしたところ、それを目的に遊びに来る親子が増えました。3階の子育て支援室と同じ環境を整えるのではなく、利用者がお子さんの成長や姿に合わせて、場所を選択して遊ぶことができるようになり、親子にとって居心地の良い場につながったと感じています。

もう一点の改善策として、移転前は乳幼児親子が対象の子育て広場だったこともあり、小中高生の居場所作りも課題でした。今はスマホやデジタルなゲームの世界が中心になっている子どもたちが多いです。そういった時代だからこそ、ボードゲーム、カードゲームといったアナログ的な遊びを通して人とのやりとりの中で「負けた」「悔しい」などの経験をしながら、負けてもめげない心や戦力を考えることにより、物事を多面的に捉える力や創造力といったような「非認知的能力」を育むことが大切ではと感じています。その経験ができるボードゲームを増やし、対象年齢ごとに分かりやすく表示し、職員と一緒に関わって遊ぶ中で楽しさを伝えていくようにしました。

また、子どもスタッフは、昨年度は職員が企画したイベントに参加するという形が多かったですが、今年度は子どもたちが話し合ってやりたいことを企画し、進めていくことができました。具体的には児童センターのマスコットキャラクターのじどうペンター君をみんなで工作して作り上げたり、絵をつなげてしりとりをしていく「絵しりとり」を提案しました。壁に自分が考えた絵しりとりを貼ると、次に考えた子が絵しりとりをつなげていくというもので、自分が誰かとつながっている嬉しさを感じている様子でした。

こういった具体的な取り組みの中で、環境を整備することはもちろん大切ではありますが、何より自由来所された親子や児童の関わりを職員が大切にすることで、職員と利用者、利用者と利用者との間に関係性が生まれ、その子にとっての「居心地の良い場」になると感じた一年でした。

次に子育て世代包括支援センター、子育て支援室の現状報告です。広い空間ですが、親子が暖かみのある場と感じていただけるように、「笑顔」「丁寧」「傾聴」を心がけながら利用者の方に関わってきました。また、今年度は新しい講座として「イクメン応援講座」「おじいちゃん、おばあちゃん応援講座」なども取り入れ、好評をいただいています。ママとお子さんだけでなく、パパや地域のおじいちゃん、おばあちゃんの力が発揮できる機会を作ることで、いろいろな方が子育てに積極的に関わっていただくことを期待しています。

来年度は新たに、双子や三つ子の家族の支援として、多胎児家族に向けた「ツインプルファミリー」の講座を開催し、あいち多胎ネットの専門の方の力も借り、多胎児家族に向けた支援を行っていく予定です。

今年度の評価すべき点としましては、居心地の良い場作りという目的に向かって、親子、子ども達に丁寧な関わりを積み重ねることができたこと。

改善すべき点として、一時預かりの利用実績が伸びていませんので、4月から料金体系の見直しや運用方法を変更し、もっと気軽に利用していただけるようにしたいと考えています。

来年度の検討事項としましては、子育て世代包括支援センターの業務が拡大されます。児童虐待に迅速に対応できるよう、新たな専門員を配置し、子ども家庭総合支援拠点事業を開始します。それぞれの専門職としての力を発揮しながら、専門職同士や各機関との連携の体制作りについて検討していきたいと考えています。また、来年度の9月にオープンする、こまきこども未

味岡児童館副館長

来館は現在、直営の児童センターが拡大、充実を図るために様変わりするわけですが、今の児童センターの良さを大切にしながら、多種多様の講座の運営するにあたり、今後直営と委託との調整、連携が大切になってくると感じています。

味岡児童館は今年度も「地域の輪、友達の輪を広げよう」を目標に掲げ、5つの理念を元に運営を行ってきました。味岡児童館と地域の結びつきは強く、皆さんと一緒に作り上げて来たと感じています。これまでも「サマーフェスティバル」という最大のイベントをはじめ、当館の主要なイベントには、サポーターの皆さんの力を貸していただいています。また学校の協力を得て、部活動やジュニア奉仕団の中学生もイベントなどのお手伝いをいただいています。その中には、児童館を利用していた年代から社会人になっても、サポーターとして支えてくれる方もいます。最近では、小学生が味岡児童館をもっと楽しくしたいという思いで、自主的な活動を始めています。児童館を支えてくれるサポーターの輪を広げていきたいと思えます。

児童館は多世代が集まり、自然と交流が生まれる環境があります。今年度の子育て支援室は、初来館の方も多くありました。アニバーサリー事業が始まり、アニバーサリーをきっかけに初来館されることもあります。育児の相談ができる場所ということを知り、各講座のお知らせをして、次の利用につながるような声掛けをしています。今年度は「あいあいサロン」の講座が始まりました。どんな悩みにも、温かく、親身になって聞いていただき、明るい先生の人柄にママたちは元気とパワーをもらっています。

中高生は学習利用の他に、音楽室の利用があります。特に夏休みになると音楽室利用が増えます。文化祭に向けた練習のため、バンドやダンスの練習をする中高生たちが大勢、スタジオを利用します。当館のスタジオを利用する高校生のバンドグループは、こまキッズフェスタのステージや青少年健全育成市民大会に出演しました。また、普段から館内でギターの貸し出しをしており、音楽仲間とギターを演奏して歌う様子や、歌で交流が生まれることもあり、時には即席のギター講座が始まることもありました。音楽がきっかけで職員と会話をしたり、将来の相談を受けることもあり、身近な大人の存在になれていると感じます。

児童館には様々な国をルーツに持つ子どもたちが遊びに来ます。「多文化共生」の継続的な取り組みとして、毎週火曜日には母語教育としてポルトガル語教室を開催しサポートしています。また、小学生向けの講座「インターナショナルあそび」では、外国の遊びや日本の昔遊びなどを紹介しています。

味岡児童館のユニークな設備として、外の庭にかまどがあります。かまどを使った体験活動として「かまど名人」や「バウムクーヘンづくり」、「おもちつき」など年間を通してかまどを使ったイベントや講座を開催しています。「かまど名人」は、かまどで炊いたご飯でおにぎりを食べるというとてもシンプルな講座です。ここでは実際に火を熾すことを体験しました。また、ご飯を炊くときに出る湯気の見え方や匂い、音などを感じとり、自分の五感を使ってご飯を炊き上げました。キッチンキッズでは、かまどで薪の火が燃える仕組みを説明しました。これらの経験が、災害時に電気やガスが止まってしまった時に、生かせると考えています。

最後に、今年度の活動の評価できる点として、地域のサポーターや学校の協力を得て、児童館の主要なイベントを開催できていることがあげられます。また、改善すべき点として、今後も継続して地域のサポーターの協力を得ていくためには、新たなサポーターづくりが必要と感じています。来年度に向けての検討事項としましては、利用者の中から味岡児童館のサポーターが生まれるような活動やその方法を考えていきたいと思えます。

篠岡児童館長

篠岡児童館は5つの理念を基に、「児童館で遊ぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」を大切に今年度も運営してきました。

篠岡児童館には様々な魅力があると思っていますが、今年度は恵まれた環境を生かして活動することを意識しました。篠岡児童館は広い館庭があります。今年度は年6回あるキッチンキッズを全て外で行いました。簡易かまどを使ってご飯を炊きました。薪のくべ方から火の付け方・炊きあがったタイミングも子どもたちがみんなで話し合い、五感を使って行いました。ご飯を上手く炊く事だけが目的ではなく「社会がいかなる状況になっても、子どもたちにはたくましく、人と力を合わせ、自分たちができることを受け身ではなく能動的に行って行ってほしい。」そんな私たちの願いを込めて活動しました。

また、広い館庭ではキッチンキッズだけでなく、世代も学区も超えて職員も仲間の一人としてみんなで誘い合ってドッジボールや鬼ごっこ・だるまさんがころんだ等の外遊びも大いに楽しみました。仲の良い子とじっくり楽しむ時間も大切にしましたが、大人も子どもも関係なくみんなで笑ったり、悔しがったり、挑戦したり、初めて会った間柄でも、大きい子が小さい子に優しく接したり、お手本となり立ち居ふるまう姿もみられ、児童館だからみられる子どもたちの姿に私たちが学ぶことが多くありました。

また、来館者の方と丁寧に関わることもより大切にしてきました。児童館は子どもだけでなく子育てをしている方にとっても、居心地の良いところであればなりません。一人ひとりの気持ちや存在そのものを大切にする。その結果心の距離が近くなることで内面が理解しやすくなり、その方にあった関わりがみえてくる。地道なことですが、大切なことだと考えています。それは児童館を運営するにあたり連携をとらなくてはいけない地域に対してもそう考えます。地域の声を聞き実態を見る。そこから児童館の役割もみえてくると思います。

以上の、「環境を生かす」「一人ひとりと丁寧に関わる」ことをより意識した2019年度。来館者の方一人ひとりと心のつながりが強くなったと評価できるのではないのでしょうか。

来年度の検討事項といたしましては、来年度も地域の方の様々なお力を借りますが、受け身ばかりでなく共に思いを出し協力しながら子育て支援や子どもの育成につなげられるように努めていきたいと思っています。

小牧児童館長

小牧児童館は「あそびを通しての仲間づくり」「楽しく過ごしホットできる居場所づくり」を目標に取り組んできました。

「子育て支援」において、支援員は母親に寄り添い第二の家庭として子育てで頑張っている母親を迎えられるよう、温かい雰囲気づくりに心がけ、情報交換だけでなく、おもちゃの充実、ゆったりとくつろげる居場所づくりを提供しています。最近では父親の姿も多く見かけ、父親同士の交流もあります。

支援室では、子育てで疲れている母親に向けたリフレッシュ体操、近隣の小児歯科の先生をお呼びして歯磨き指導とQ&A、また牛乳パックで作るイス作りは毎回好評です。しかし昨年に比べ幼児親子利用が減少している為、今以上に母親同士の橋渡しに心がけ、支援室をより過ごしやすく環境を整え利用者親子に来館して頂けるようにします。

また、「母と子クラブ、広場」の中では、ボランティアによる読み聞かせ、講師を招き、リトミック、英語であそぼう、運動、体育あそびクラブの中では、普段指導が難しい跳び箱や、マット運動を教えて頂いています。

「季節に応じたイベント行事」も行い、夜のお化け屋敷、ハロウィン、3月のおこしもの作りは毎年好評です。昨年秋には、段ボールで住居を作り、空き缶と牛乳パックを使ってご飯を炊き、家族で泊まり避難体験をしました。

単館ならではの特色を活かし工夫を凝らしながら実施しています。

児童館では、数年前から双子の支援事業を行っています。子育ては一人でも大変、まして2人、3人となれば、悩みも倍です。児童館には双子を育てている職員もいます。その経験を活かし悩み相談、アドバイスをして、月1回ではありますが、テーマを決め行事を取り入れております。参加者の皆さんは昼食をとりゆっくり遊んで行かれます。

「地域との連携」では町内のお祭りに参加し、近隣の保育園にも出向き交流を図っています。昨年、児童館を利用している母親と職員で「みなくる音楽隊」を6月に結成、クリスマス会に発表しました。歌が好き、楽器の得意なお母さんと一緒に次回の発表に向けて練習します。新しいメンバーも増えつつ地域との交流に繋がればと思っています。

検討事項としては、行事によっては小学生高学年の参加が少なく、反対に幼児親子の参加が増えている為、どの年齢でも無理なく楽しく遊べるようゲーム内容をさらに変えていかなければいけない。中高生の利用には居場所づくりとし卓球、バドミントンだけでなく、身体を使った遊びやグループで楽しめる、ボードゲームなどに力を入れ、職員も見守るだけでなく、一緒に参加できるようにしていきたいと考えています。

小牧南児童館長

小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれており、「すべては子どもたちの為に」を合言葉に運営を行ってまいりました。

令和を迎えた今年度、利用者は増加傾向にあり、昨年に比べ全体で約20%、2割程度増えております。増加の内容としましては、幼児親子の利用増が顕著で、子育て支援室を利用する方の大幅な増加が全体増を押し上げている形となっております。主な要因としましては、近隣が新興住宅地という事で、子ども人口が増加している地区であるという事もありますが、ホスピタリティを重視し、子どもの為になるのであれば、利用者のニーズにできる限り応える職員の姿勢が利用者にも評価されてきたのかもしれない。

この南部地区は、地域のつながりが非常に強い地区であります。ふらっとみなみ運営協議会をはじめ、コミュニティセンターとの共催で七夕や夏祭り、クリスマス、節分、ひな祭りなど、多数のイベントを開催しておりますが、地域の様々な世代の方々のご協力もあり、どのイベントも大変盛況で、多世代交流を深めながら、児童館の運営を行っているところであります。

当児童館で大切にしていることの一つの考え方として、子育て中の「保護者が楽である」「楽できる」という子育て支援ではなく、「子育ては大変だけど、楽しい」と思えるような支援を目指すというのがあります。子どもと大人が、一緒に楽しめる内容を行うことで、「子どもと一緒に楽しい、一緒だからこそ楽しい」と思える、企画を心がけ、子どもを取り巻く環境が少しでも良くなることを発信し続けていきたいと思っております。そういった意味でも、今年は人形劇をやめて、マジックショーやクラウンのショーなどを実施したり、自転車の補助輪外し教室など、親子で参加しやすいものを増やしています。

この他、外部企業、団体と連携し、離乳食などの食育や、ビューティートレーニングといった、子育てに有益な講座や、大人も楽しめる内容の講座なども実施し、保護者に向けた企画もご好評を得ております。しかし、昨年10月に更新されました新しい児童館ガイドラインにある通り、「子どもが主体である」という事を鑑みまして、子どもにとって最善の利益を優先した運営は変わりません。

本年度は、こどもプランナーと言って、小学3年生以上の有志が集まり、夏祭り等、児童館活動の企画、運営を行っているのですが、図書室でプラネタリウムを実施したり、クッキング活動など、子どもたちから出た意見をそ

北里児童館長

のまま実施してみる事も行いました。

ただ、そうした活動の充実とは逆に、中高生が減少傾向にある事が昨今の懸案事項となっております。もちろん、高学年向けのゲームの充実等も行ってありますが、先ほど述べたように、親子での活動が増えると必然的に幼児～低学年児が増えます。そうすると児童館＝小さい子の場、というイメージがこちら側は意図しなくても自然と生まれてきています。児童館という狭い空間の中、異年齢交流をどのように進めて行くのか、また、中学生、高校生のニーズがどこにあり、どういった関わりが必要なのか、当面の課題として考えていきたいと思っております。

誰もが気軽に「ふらっと」立ち寄り、すべての方々が「ほっ」と一息つける居心地の良い空間であることを目指します。そして当児童館の目標でもある「全ては子どもたちの為に」という想いが職員だけでなく、保護者や地域の方々に広がっていく事。児童館がそんな社会の創世の一助となればと思います。

「あそびを通して仲間づくりを。地域の繋がりを大切に。」を目標に1年間つとめてきました。

クラブ参観日は4年目を迎えました。家庭や学校とは違う児童館ならではの姿を見ていただけることが好評で保護者が認める声掛けのきっかけにもなり、小さな良いところに気が付いていただき、その子なりの成長に喜んで頂いています。

北里中学校のジュニア奉仕団活動をきっかけに、児童館の職員の動きや子どもたちと関わる事に興味を持った中学生からの提案で自由来館時に館内の掲示ブースを担当するようになりました。「脳トレ」の問題を作るようになり「読めるかな?」「ひらがなの方がいいかな?」等遊びに来る子どもたちを思いやる気持ちが育っています。中学生の遊び場所が役に立つ場所となり活躍しています。

地域の方にご協力頂き、段ボールを集めて大きな遊び道具を手作りしました。写真のコロコロのゲームは縦6メートル横6メートルです。大きなビーチボールも小さく見えます。夏祭りのブースは職員が楽しそうに作っている姿を見て参加にも繋がったと思います。支援室でも大型玩具(3つ目の写真)としてトンネルや滑り台の段ボール工作を提供しています。

支援室では毎月26日に誕生会をしています。兼ねてから要望があったスマホで撮影ができる誕生日会としました。(4つ目の写真)今時のママには写真映えがすると1メートルのろうそくが好評です。始めのうちは職員が撮影をしていましたが、利用者同士で撮影しあうようになり、自然といい関わりができてきています。

朝起きた時間が遅いから昼食と朝食が兼用している、出かけるから2時過ぎ昼食を取った等話を聞くことが多いです。母と子クラブでは、次年度年少組で幼稚園保育園に入園したときに困らないように食事の習慣を身につけて頂こうと、11時30分から集会室で食事タイムにしています。「お弁当を作っても、コンビニのおにぎりでもいいよ」などとハードルを下げてとにかく食べる習慣を目標に取り組みました。以前は入園後、「給食を食べないから困った。」とのママからの相談が多くありましたが、「お腹がすくように生活習慣が整ってきたみたい。」と入園後の食事で困るとの相談も少なくなってきました。

館内の整備は常に利用者の意見を聞き、早い対応に心がけています。昨年はPタイルを素足や靴下で利用するには冷たいとの声が多く、一部分のみクッションマットで対応しましたが、今年度は更に安全を考え、防炎のマットを敷き詰める事にしました。すると、支援室から移動するときのかわいい子どもがハイハイをしている姿も見られ、廊下も安心できる場所が変わってき

ました。館内の設備は、壁面のクロス替えに引き続き小牧市の修繕で遊戯室の床の張替えをしていただきました。子どもたちには更に安心して遊べるスペースに変わったと思います。

併設の北里市民センターの施設を利用させていただき、クラブ活動、行事など盛大に開催させていただいています。避難、消防訓練も一緒にさせていただいており安全に対する意識を持ち努めていきます。

父母クラブでは親同士の交流で、今年度は「パンでランチ」「ハーバリウム」をしました。ママが講師、ママのお友達が講師、と仲間が繋がり、楽しい時間が過ごせました。今年度は小さなお子さんを持つママ達にも参加して頂けるように役員が交代で託児をしました。「やればできるね。」とママ達の自信に繋がった様です。

地域の方にも関わらせて頂いて、地域協議会、小学校、中学校の委員で児童館の子どもの姿を報告しています。子ども会や区長様にも児童館を知っていただく機会になればと思っています。

最後に、今年度の評価できる点として、職員の手作り玩具です。工夫を凝らして作っています。また、利用者の声を常に伺い、その要望に応じているところだと思います。先日、他施設での幼児トイレベビーキープの不具合事故の連絡をいただき、児童館でも使用している物なので、トイレの点検表の項目を追加して更に安全に務めるようにしました。

改善すべき点としては、周知方法だと思います。小牧市広報、館便り、ホームページで父母クラブや児童館の行事のお知らせを中心にブログを上げています。児童館に足を向けていただける様に改善策を考えていきたいです。これからも居場所として、多くの方に来館頂くために周知をどのように進めていくか、子どもたちと話し合う時間を持つ等、どのように工夫していくかが課題です。これからも地域の方とも関わらせて頂きながら頑張っていきたいと思っています。

最後に、来年度に向けて、中高生の居場所としての工夫をさらにする事と、新しいものにチャレンジしていければと思っています。今年度は初めて0、1、2歳児の乳児向けに人形劇団をお迎えしました。定番の好評をいただいている行事とともに、利用者の声を伺いながら行事を開催していこうと思います。

西部児童館長

西部児童館は『来た人が笑顔になれる場所』をキーワードに、コミュニティセンター複合施設として、施設の特色を活かした取り組みを続けてきました。

おかげをもちまして、今年度も多くの皆様に、ご利用いただいております。今年度は来館していただくきっかけとなるものを実施できるよう取り組みました。

子育て支援の新たな取り組みとして、幼児親子向け食育講座「もぐもぐキッチン」を隔月で開始しました。季節の読み聞かせと併せて簡単な調理を幼児親子で行います。「あれから家で何回も作っています」や「うちでは時間や余裕が無くてできない洗い物と一緒に取り組めて嬉しい」といった声を多くいただいています。口コミで広がり、受付開始当日には開館前に申し込みを待つ方がいるくらい人気の講座となりました。また、毎月のお誕生会も人気です。まだまだ先のことを楽しみにいただいている姿は嬉しい限りです。

児童館としては、様々な遊び・学びを提供できるように努めました。その中で、今年度は近隣企業様との連携イベントも数多く行いました。防犯教室や交通安全教室を始め、エコクラブやお腹の健康教室、離乳食の講座など、地域企業の協力を得ながら、多様なイベントを開催することができました。

そして何より、コミュニティセンター運営協議会を始め、地域の皆様との

大城児童館長

繋がりを大切にしてきました。今年度は、地区の夏まつりにも児童館として出店し、子ども会の方々と共に、子どもたちに児童館のクラフトを提供しました。今後地域への参加も積極的に対応していきたいです。

今年度の評価できる点としまして、小学生増加に向けた取り組みがしっかりできたことです。対象となるクラブの増加、日常の製作を頻繁に入れ替えるなどの飽きない工夫をしました。その結果、毎日利用してくれるような子が複数おり、小学生の利用者数が増加しました。

反対に改善すべき点として、中高生の利用率アップが課題です。学習室利用など、以前に比べると定着してきた部分がありますが、昨年頻繁に利用していた中学生が卒業したことで、大幅に減少しています。

定着してきた小学生はそのままに、中高生そして幼児親子の定着を図っていくことが次年度に向けての検討事項です。

大城児童館は令和2年度、指定管理が始まって11年目の運営をやらせていただいています。桃花台地区はだいたい少子高齢化が進んでおり、小学生は外国人生徒の割合が高くなっています。

当初から地域ぐるみの運営で、地域の方々のサポートを頂きながら行っております。地域運営協議会ではどういった内容で運営しているのかを報告し、中間評価・年度評価をいただいています。また、法人側でモニタリングを実施しています。そういった中で見えてくるのは、利用者の方と職員の間で非常に信頼関係が築き上げられているということです。特に子育て支援室の利用が多く、アンケートに出てくるのは、「名前を覚えて常と呼んでくれる」「ちょっとしたことでも話を聞いてもらえてありがたい」ということです。他市の方にも評価をいただいている、他市にも子育て施設はできておりますが、大城児童館に来てもらっています。

2番目の「多世代での子育て支援」についてお話させていただきます。おじいちゃんおばあちゃんがお孫さんを連れてくることや、お父さんが連れて来館されることも多く、講座に参加して一緒にお遊戯してくれたりします。また、このところ多胎児で利用される方が増えてきている傾向があります。他市の事例を参考にしながら、今後に向けて児童館でどのような支援ができるか、行政とともに具体的に考えていきたいと思っております。

3番目の「中高生の居場所」につきましては、できるだけ自由に過ごしてもらえるように、と子どもたちには話します。特に悪戯する子たちには丁寧に敬語で話をして、みんなが楽しく過ごせるよう声掛けしています。何度言っても聞かない子もいますが、そのような子たちも常に声掛けしていると挨拶して帰っていくようになります。

4番目の「多文化共生」については、母語教育を毎週開催するように用意しているのですが、大城地区ではニーズが少し減ってきたように思います。その代わり日本語を教えてほしいということで、日本語の不自由な子に向けて実験的に日本語教育を行っているところです。割合的には中国の方が増えてきているように思います。

5番目の「社会教育の展開」としましては、多世代で楽しめるイベントを行っています。英語の講座を色々な形で行っていきまして、複数の先生にお願いしてできるだけ親子で参加してもらえるようにしています。また、児童館サポーターは地域ぐるみでとても増えてきています。どのイベントについても事前にサポーターの方と相談しながら企画しています。今後に向けては、先ほども申し上げましたが、多文化共生の外国人の方々にむけての日本語を少しでも伝えられるような講座や、多胎児に向けた支援に力を入れていきたいと思っています。あとは、スマホ育児について色々と言われていますが、ポジティブな面とネガティブな面がありますので、いい形でスマホと関わってもらえるように、多世代の方に伝えていこうと思っています。

センター長

(資料2)

続きまして、(2)平成30年度児童館・子育て支援室利用状況について報告します。表の上段は30年度の12月までの数字、下段は29年度1年間の数字となっています。また、左側の「個人任意利用者数」は来館された人数で、右側の「集団指導等利用者数」はクラブ講座に参加された人数、または工作や手芸など、職員が関わって指導した人数です。

「個人任意利用者数」は前年度に比べて増減はそれぞれの児童館で異なりますが、全館合計で29年度は月平均24639人、30年度は29226人になりまして、全体として増加傾向にあります。

次に支援室の利用状況について説明します。同じように、表の上段は30年度の12月までの数字、下段は29年度の1年間の数字となっています。29年度は月平均12154人、30年度は13747人で、こちらも増加傾向にあります。支援室でゆったりと過ごす親子や、職員に自分の思いを聞いて欲しくて来館されるリピータの方を見ていると、親子で安心して遊べる場、また、お母さん方の支援の場として、支援室の役割は大きいと感じています。

司会

ただ今、令和元年度児童館現状報告と令和元年度児童館・子育て支援室利用状況について報告がありました。これについて、ご意見、ご質問はありませんか？

ご意見、ご質問もないようですので、次に移らせていただきます。

(3)児童館利用者アンケートについて事務局からご説明申し上げます。

担当

(資料3)

指定管理者制度を導入している児童館においては、年2回のモニタリングを義務付けておりますが、全館共通様式を使用したアンケートによるモニタリングを年1回実施することで、各館利用者の満足度を比較することができ、児童館運営の質の向上に努めることを目的に実施しております。

アンケートは、児童館を利用する児童及び保護者を対象として、小学生、中学生以上、保護者の区分に分けて、令和元年10月28日から11月27日までの期間で実施いたしました。市内全8館で、小学生464人、中学生以上330人、保護者434人から回答をいただきました。

小学生のアンケートでは昨年と比べると全体的に%は少し下がっていますが、質問1の「児童館は楽しいですか？」では約9割のお子さんから楽しいという回答をいただきました。自由記述では、おもちゃや漫画など具体的にリクエストした子どもが多くいたため、今後購入を検討していきます。

工作についての記述が多く、「楽しい」、「たくさん種類がある」という声をたくさんいただいた一方、「量が少ない」、「同じものばかり」、「回数制限がある」という意見もいただきました。

工作に次いで職員についての記述も多く、「先生が優しい」、「頼れる人がたくさんいるので何度も来ようと思う」など肯定的な意見をたくさんいただきました。次のページには「他にも遊びに行く児童館」を掲載しています。続いて、中学生以上のアンケートでは、約75%の方から「児童館へ行くことは楽しい」と回答を頂きましたが、昨年度と比較すると4%ほど下がっています。「どんなときに児童館を利用しますか」の回答からは、中学生以上はほとんど卓球やテスト勉強での利用であることがわかりました。

今年度から、新たに「児童館を利用して思うこと」の欄を設けたところ、自習室や勉強スペースについての要望が多く、「いい環境で集中できる」、「21時までやっていてありがたい」といった意見の一方で、「しきりがは

しい」、「音楽室の音漏れが気になる」などの意見がありました。小さい子向けの企画が多い児童館で、中高生の居場所づくりは一つの課題でもありますので、環境改善に努め、居心地の良い場所となるように今後工夫していきます。次のページに小学生と同様、他に遊びに行ったことのある児童館を載せています。

次に、保護者用のアンケートですが、高い満足度を得ていることがわかります。自由記述でも「子育てになくってはならない場所」、「気分転換になる」といった内容が多く、児童館が心の支えになっていることがわかりました。その中で、毎年頂く声ですが、支援室に入ることができる年齢が決まっていることから、兄弟で来館した場合に困るという声がいくつかありました。安全面からスペースを分けることはやむを得ないと考えていますので、そのような場合にはできる限り職員がサポートしたり、支援室の外でも小さい子が遊べるよう、対象年齢の低いおもちゃを用意したりして、なるべくご不便をおかけしないよう、配慮していきます。

司会

ただ今、児童館利用者アンケートについて説明がありましたが、これについて、ご意見、ご質問はありませんか？

ご意見、ご質問もないようですので、次に移らせていただきます。

(4) (仮称) こども未来館について 事務局からご説明申し上げます。

担当

(仮称) こども未来館については、以前からこの委員会でも説明させていただいていますが、平成30年度まで中部公民館にあった児童センターの機能を拡充し、遊びや体験を通して学びにつなげ、こどもが主役となる拠点として整備をするものです。

したがって、こども未来館は児童館として位置付けられ、「小牧市児童館の設置及び管理に関する条例」の中で規定します。

3月の市議会に「小牧市児童館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案」を上程する予定で、項目をしぼって説明させていただきますが、この資料の名称、開設日、利用料金など一部の内容は現時点ではまだ確定したものではないことをご了承ください。

名称についてはこども未来館の仮称がある程度市民の方々にも浸透していると思しますので「こまきこども未来館」とします。

開設日についてですが、現在、工事は順調に進んでおり、工事が完了しだい備品納品などの開設準備を行い、9月5日(土)に開設を予定しています。運営方法は、基本的には市直営となっておりますが、講座開催業務、受付業務についての一部の業務を委託します。なお、講座開催業務委託については令和元年12月20日にプロポーザルを実施し、NPO法人10人村と契約締結の準備を進めているところです。

一方、受付業務については、令和2年度になってから入札により業者を決定する予定です。

休館日については、まなび創造館や子育て世代包括支援センターと同様、第3火曜日としますが、今後、施設のメンテナンスが増えていくことが予想されることから、その前の月曜日も休みとします。なお、月曜日が祝日の場合は開館します。

次に開設時間についてです。開設時間は施設全体としては、9時30分から21時までですが、資料にあるように場所によって異なります。フロアマップも見ながらお聞きください。

こども未来館は大きく「児遊広場」「ニコニコ広場」「遊び広場」「体験広場」「交流広場」の5つのエリアに分かれます。「児遊広場」は4階の旧子育て広場で、現在の児童センターのエリアになります。このエリアは正規職

員や市が雇用する臨時職員を配置し、市が直接運営を行いまして、開設時間は9時30分から17時30までとなります。「ニコニコ広場」はラピオ4階の南側のエリアで、ままごと遊びやボールプールなどがあり、主に未就学児とその保護者が利用します。開設時間は9時30分から16時30分までとします。当初は17時30分までを想定していましたが、小さいお子さんが手に取って遊ぶおもちゃがたくさんありますので、16時30分で閉じておもちゃなどを清掃するための時間を確保したものです。「遊び広場」はラピオ3階の南側、ネット遊具周りやアスレチック遊具があるエリアになります。主に小学生が対象で、子どもだけの来館であれば17時30分までの利用になりますが、保護者同伴の小学生であれば19時まで利用できます。「体験広場」は3階の東側のエリアで、工作室やプログラミング室などがあり、このエリアで開催する講座を10人村に業務委託します。小学生のほか、中高生の利用を想定しており19時までとなっています。「交流広場」は2階の南西エリアになり、中高生だけでなく、いろいろな方々が利用できる交流スペースの他に音楽スタジオ2部屋とダンススタジオがあります。音楽スタジオの利用料は、大城児童館、味岡児童館の音楽室と同様2時間500円、ダンススタジオは音楽スタジオよりも広いことから2時間1000円としています。スタジオは大人の方も利用できますが、利用料は子ども2倍となり、音楽スタジオは2時間1000円、ダンススタジオが2時間2000円になります。開設時間は9時30分から21時までとしますが、スタジオを貸すのは10時からになります。

「6 その他」としまして、1つ目の子ども会への支援についてですが、今年度の4月現在で市子連に加入している単位子ども会が35団体となっており、毎年加入子ども会が減少しています。先日、こども政策課で市内129区に対して、子ども会活動の状況調査を実施しました。結果は118区から回答があり、市子連に加入している子ども会を含めて98の子ども会が活動していることが分かりました。その中で、市子連自体を知らないという意見もありましたが、市子連の役員が負担で市子連をやめてしまったという意見がたくさんありました。

こういった状況を踏まえて、こども未来館の講座開催業務委託を発注するにあたって、市子連と連携し、児童の育成助長及びその指導者の養成を図り、子ども会活性化事業の支援および市子連事務局の事務支援を行うことを仕様書に盛り込んでおり、令和3年度から、ジュニアリーダー養成、年少リーダー養成として、こども未来館で実施する行事などに子どもたちを参画させていくほか、単位子ども会からこども未来館の施設利用の依頼があった場合は、優先的な利用に配慮することとしています。

最後に、こまキッズフェスタについてですが、令和2年度については従来どおり開催しますが、現在、市子連でも今後存続も含めどのように活動していくのか現在検討しているとのことですので、令和3年度以降の開催については今後検討してまいります。

司会

ただ今、(仮称)こども未来館について説明がありましたが、これについて、ご意見、ご質問はありませんか？

委員長

4階については市直営ですか？

担当

その通りです。委託するのは講座と3階・4階の受付業務のみです。

司会

その他によろしいでしょうか。
それでは、ご意見、ご質問もないようですので、議事に移らせていただきます。

委員長	<p>議事の進行は、永井委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
センター長	<p>それでは議事に入ります。 (1) 令和2年度児童館活動方針・活動目標（案）について 事務局より説明をお願いします。</p> <p>(資料4) 活動方針や目標など今までと違いはありませんが、先ほども申しあげましたが、令和2年度こまきこども未来館がオープンする予定です。今の児童センターの良さを大切にしながら、児童館や家庭、学校では経験できないことを楽しめる講座などを予定しています。講座ありきになることなく、児童館の求められる役割などガイドラインにうたわれている趣旨を職員ひとり一人が理解し、子どもが遊びによって心身の健康を増進し、知的・社会的能力を高め、情緒をゆたかにするような援助を大切にしていきたいと考えています。次に令和2年度の小牧市子ども会連絡協議会との連携事業ですが、来年度で11回目を迎えるこまキッズフェスタを令和2年11月14日に勤労センターで行う予定です。</p>
委員長	<p>ただ今、令和2年度児童館活動方針・活動目標（案）について、説明がありました。このことについてご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>ご意見、ご質問もないようですので、令和2年度児童館活動方針・活動目標（案）につきましても、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしとのことですので、令和2年度児童館活動方針・活動目標（案）につきましても、原案のとおり承認されました。</p>
センター長	<p>次に、(2) 令和2年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について事務局より説明をお願いします。</p> <p>クラブでの活動は、共通の興味関心をもった子どもたちが集まって活動するものです。多少の変更はありますが、31年度と大きくは変わっていません。</p> <p>こどもスタッフ、こどもプランナーといった子どもの話し合いの場を計画的に設け、自分たちで活動を作り上げることができるような活動を取り入れています。また、外国籍が多い地域ではその特性を生かし、インターナショナルあそびなどを開催しています。</p> <p>続きまして、行事につきましても31年度と大きく変わっていませんが、現在こまきこども未来館に向けての講座などを検討している最中です。今後は今の児童センター職員の意見を取り入れながら、講座の委託を請け負うNPO法人10人村との調節や連携を図り、親子や子どもたちのための児童福祉施設として機能できるように考えていきたいです。</p>
委員長	<p>ただ今、(2) 令和2年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について説明がありました。このことについてご意見、ご質問はありませんか。</p>

ご意見、ご質問もないようですので、令和2年度児童館クラブ活動・行事計画（案）につきましては、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

（異議なし）

異議なしとのことですので、令和2年度児童館クラブ活動・行事計画（案）につきましては、原案のとおり承認されました。
次に、（3）令和2年度児童館の子育て支援（案）について事務局より説明をお願いします。

センター長

登録制の母と子クラブや自由参加のちびっこ広場などを通して、親子同士が交流できる場にもなっています。そして、子育て講座では親子で過ごすことで、子育ての楽しさが味わえるようにしています。

また、今年度スタートしました1歳の誕生日の節目に育児に関するアンケートに答えていただき、誕生日プレゼントの絵本を渡す、アニバーサリー事業を各支援室で行っていただいているところで、アンケートから困り感に気づき、早期に支援につなげていくことができつつあります。

昔は3世代、4世代同居の大家族が主流で地域や親せきとの関わりが多かったですが、今は親と子の核家族が主流になり、また、シングルで子育てする方やワンオペ育児という言葉も出てくるように、子育てを孤立した中で行っている方が増えています。

人との関係が希薄になっている今、地域の中で育ててきた役割を子育て支援室が担っていく必要があると感じ、引き続き各支援室ではだれもがいつでも利用でき、気軽に相談できる場として温かい雰囲気づくりに努めていきたいです。

委員長

ただ今、令和2年度児童館の子育て支援（案）について説明がありました。このことについてご意見、ご質問はありませんか。

ここで、委員の皆様一言ずつお願いしたいと思います。

沖本委員

地域と繋がった児童館行事を行っていて、子どもたちは幸せなのではないかと感じました。ありがとうございます。

堀委員

娘が小さいころ児童館をよく利用していました。その時はお母さん同士の関わりが主で、他のお母さんと比べてしまい、自分劣っているような気がして刺激が強かったのですが、今伺っていると三世代に渡って色々な方が来館してくださっていると聞き、そういった雰囲気だと参加しやすくなると思いました。

東谷委員

今日のお話を聞いていて、双子のお子さんがある家庭のサポートが少しずつ増えているのがすごくいいと思いました。私も双子と双子以外に2人いたのですごく大変で、お母さんの気持ちが休まる空間があるとすごくいいと思います。これからも続けていただけるとよいと思います。

来治委員

今コロナウイルスが深刻な問題になっていますが、コロナウイルスに限らず、風邪やインフルエンザなど対策はなにかされていますか。

センター長

流行のあるなしに関わらず、日頃から小さいお子さんは玩具を口にいらしますので、朝、閉館後、昼間の来館者が少ないときを見計らって次亜塩素酸で

消毒を行うようにしています。今は特に、アレルギーの方を除いては必ず手をアルコール消毒してから入っていただくようにしています。

小島委員

孫が土日になると毎週楽しみにでかけていきます。「どうしてそんなに児童館が好きなの？」と聞くと、「自由にさせてくれるから。」と言っていました。学校や家庭とは違ういいものがあるのだと思います。一緒に行きたいのですが、「おばあちゃんは来るな。」と言われます。自由な時間をのびのびと過ごしてもらえたらと思っていますので、よろしくお願いします。

伊藤委員

資料や皆様の報告から「居場所」「居心地のよいところ」という言葉を多く聞きますが、うちの小木小学校も「居心地のよいところ」を目標としているので、児童館も同じ気持ちでいてくださるとわかりました。安心感が生まれ、みんながそういう場所を求めて集まってくるのだなと思います。

私は補導員で月1児童館へ伺いますが、一緒にお邪魔する方が児童クラブの支援員をやっていて、遊びや工作のアイデアをクラブでも参考にしており、見せてもらえるのが刺激になりありがたいと言っていました。

丹羽委員

地域に根差した児童館づくりをさせていただいているとわかりました。地域を巻き込みながら、利用者の声を聴きながら事業を進めて、課題解決に向けて職員同士で話し合われている。課題意識があるということはとても素晴らしいと思います。

他市からも小牧市は充実しているという声をよく聞きます。先生方のご苦労が実っていると思います。私がお邪魔した時も、職員の方がいつも笑顔で迎えてくれるのでホッとします。

1点、耳に入った話で全体のことでないと思いますが、支援室で、子どもの話ではなくてプライベートな話、例えば「実家はどこなのか」「ご主人の仕事は？」などと聞かれたのが嫌だったという声を聞きました。職員の方は親しくなるために、会話のきっかけにとしたのだと思いますが、プライベートは聞いてほしくない方もいますので、そういうことがあったということだけ報告しておきたいと思います。

委員長

本日も北海道で小学生が2名コロナウイルスに感染したとニュースになっていました。児童館で発生した場合にはどのように対応していくのか話し合っておかなければならないと思います。

大城児童館から「スマホ教室」という話がありましたが、子どもたちにスマホ依存症が多くみられます。いつの段階で、どんなケアをしたらよいのか。例えば小学校の入口の就学時健診のとき保護者に啓発するという方法がありますが、それでも遅いという現実があります。育児中にお母さんはストレスを抱えて、虐待の一步手前という切羽詰まった状態もありますよね。それをあやすためにスマホを与えている。しょうがないことではないかとも思いますが、小さいころからデジタルスクリーンを長い時間見させることが、将来依存症につながっていくので危険です。児童館の子育て講座にプログラムとして取り入れていくことも1つのアイデアだと思います。

委員長

ご意見も終わりましたので、令和2年度児童館の子育て支援（案）につきましては、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

(異議なし)

異議なしとのことですので、令和2年度児童館の子育て支援（案）につきましては、原案のとおり承認されました。

司会

以上をもちまして、本会に提出されました議事につきましては、すべて終了いたしましたので、進行を司会にお返しします。

委員の皆様、速やかな議事の進行にご協力ありがとうございました。
最後に、全体を通してご質問等はございませんか。

これもちまして、令和元年度第2回小牧市児童館運営委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。事故のないように、お気を付けてお帰りください。